

選舉が産む「新職業」 封筒書さの殺到

平町職紹介を訪づれる 知識階級失業卅餘名

總選舉の幕は正に切つて落とされんとするが、選挙事務所では何といつても一番當惑する問題は十萬から二十萬近くに達する推薦状や立候補聲明書などの封筒書の人手が不足することである。所が今度はその心配が不必要になつた、それは緊縮内閣の餘計で社會の不景氣は自由労働者のみを失業せしめるばかりでなく、解散した銀行會社の事務員の失業等をもしつと製造したので従つて許人足だけは心配しなくてもよい譯である、そこで抜け目のない事務員級の失業者は平町職業紹介所に選挙の封筒書を希望して三十一日までにザツト三十五名程申込んでゐるが時節柄失業者救済にもなるこの「新職業」を生み出した現内閣の緊縮政策も時と場合によつては大した効能があるものである。

死物狂ひの公認争ひ

第三區の民政

第三區民政黨比佐昌平氏と野崎滿藏との公認争ひは前古未曾有の物凄さで比佐氏に公認のお鉢が、廻る迄には實に兩派は死物狂ひの争覇戦を續けたものである。公認を決定すべき總會當日比佐派の同志一族百餘名は會場の石城民政俱樂部内に文字通り立錐の餘地がなかつたので野崎派では場内狹隘を理由に會場の變更を迫つたが、比佐派では之れに應諾せず若松部會長が不在な爲め萩原幹事長の采配に依つて先づ吉田五平氏外十名の詮衡委員を決定すると野崎派では憤然席を蹴つて退場し全町に張出しをなして一族郎黨を引具して別個の部會總會を開いた即ち部

社民黨立候補

第三區の戦渦へ



家庭欄

民政比佐氏、對野崎氏の軋轢も比佐氏公認で自然消滅

會の首腦者たる若松部會長が不在の場合には副部會長の野崎滿藏氏が之を又詮衡委員十一名を選び兩派委員は廿六日福島支部に大島支部長を訪問し公認の争ひをなしたものである支部では種々兩者妥協の奔走を續けた結果一、比佐昌平氏を公認すること一、有聲座で開いた部會總會を認めることとの二案を提出して先づ野崎派の承認を求めた處比佐派では斷じて之れに應ぜなかつた即ち有聲座の總會を認められては例令比佐氏が公認とされても事實上虐殺される破目に陥るとして斷乎としてこの裁定を一蹴し同時に野崎氏の總會を認めるに於いては比佐氏は支部の公認を受けず直接本部の公認を受ける旨強硬に迫つたので支部では全く大狼狽し手も足も出ぬ状態となり兎にも角にも本部の趣意に基き比佐氏を公認としたものである。

歩調亂れ出す

平町電燈料値下運動

會社側は成行きを樂觀

平町に於ける電燈値下げ同盟會では二十九日東電橋本社長に對し會長平澤勝次郎氏から再考を促すべく陳情書を提出したが平町の電燈値下げは會社側が合法的態度に出でざる限り如何に平町が促進運動を起してもぬかに釘程の手搦へもない事は明らかで二三委員連の中には經濟の狀態が回復するまでまつことが安當だといふ意見さへ現れて切角の値下げ問題は内部から崩れんとし同一歩調をもつて來た足並も漸く怪しくなつて來たが會社側では結局は龍頭式に終るものと成行を樂觀してゐる模様である。

高師合格者

警中から

東京高等師範學校の入學試験は昨年十二月廿四日より廿六日までの間に行はれたが警城中學校よりは現在五年在學中の成田未太郎君(体操科)昨年の卒業生菅野一君(地歴科)が合格した。

明日の豫氣

北東の風 次第に曇る

眼鏡 蓄音器

トキハヤ 平町一丁目

きにして又もとの如くまきこれを御飯むしの夜分むした中に入れ、やはらかにするまでむす、豚肉は熱湯の中にいれ二十分間火にかけて鍋にふたをして、むれにとすのであります、豚のさめたととき取出してせんろに添ひてさきを細かく切つておきます、別に白みそに砂糖をいれてませ合せ之に豚肉をまぜいれ之を大根を器にもつた上にかけて食します。

●お顔の赤い方 ●お顔の赤い方は、肌色または緑色の白粉をタツフにつけて充分によくすりこみ、パニッシュングクリームをライラック水で溶いて薄くひきます。

今年も感冒流行

また悪い感冒が流行してききました、今年の流行性感冒は大体にまつ頭痛があるやうです、次に

全身の力がぬけて

あるやうに思はれるのです、次に口腔、のどを胃します熱はなかくにはげしいものもあり胸にはあまり来ぬやうでもありません、おほく一週間位したら治つてゐます、流感は主に飛沫

から傳染します、それ故にこれまで行はれてゐた豫防方法はやはり怠りなく励行し、ていたさかなくはなりません、第一にマスクをお用ひくださいこれは自他ともに甚だ有効です、次にうがひを励行して下さい、一萬倍位の過満飽酸加里液を用ふるがよろしい、患者には接近せぬこと、よわい小兒なんかはこゝの頃入ごみの中へつれてゆかぬこと

芝居や

活動なんかは最も面白くありません、それから一寸これは外のこととやうですが寝る時のことだつこれが大關係あります

入浴は

いけません、無理な仕事もいけません、安静にします、つまり寝てゐることが一番であります、はじめから安静にしてゐたら決して大したことはない、りません、醫師には早いだけよろしい、自分勝手にいらくなものをつかぬこと、と取かへしつかぬこと、に解熱劑を用ふるなんか

酒類消費高

昭和四年度に於ける石城郡の酒類消費高は二萬四千二百四十一石で之を種類別にすると清酒二萬二千七十八石、焼酎一千三百六十四石、白酒十三石、味淋七十三石、ビール六百八十九石、葡萄酒二十一石、ウイスキー三石で全戸數三萬六千五百三十八戸より割出せば昨年中

子供は

はあぶない事です、ことに醫者に見せるのが安全であります。(市原醫院・長市原卯太郎氏談)

木村氏へ寄附

政友會から木村清治氏が立候補したのに際し石城郡上遠野村元代議士赤坂龜次郎氏より三十圓東京の無名士より二十圓選舉費の一部として寄附して來た

健胃 胃腸を元気に散 小野常治謹製